

簡単ビオトープ ～身近な自然を知る～

藤沢市立第一中学校

1. 実践の内容

私は特別支援学級を担当する中で、子どもたちに何か自然にふれあう環境を作れないかと思い、個人的に大きなプランターを使い、ビオトープ作りを始めた。実践するにあたり、本校の理科の先生の実践などを参考にした。



- ① 準備するものは、プランター・赤玉土・校地内に落ちていた石である。水草は、ホテイ草かホームセンターで売っているカボンバ・アナカリスを使った。生物は、メダカ・クチボソ・手長エビ・沼エビ・ヤゴを学校のプールや近くの池で捕まえて入れた。また、タナゴやドジョウもホームセンターで購入した。
- ② その後は、なるべく自然に近い状況を作るために、水を減ったときに入れるぐらいにしている。子どもたちに興味を持ってもらうために、たまにエサやりなどを手伝ってもらった。



2. 実践の成果

- ① 夏の間はアオコや藻が大量に発生して困ったが、水を入れ替えるなどして乗り切った。
- ② 自然に近い状況が上手に作れ、貰ったホテイアオイに付いていたメダカの卵が自然に孵り、大きく育てることが出来た。メダカの産卵にホテイアオイ、カボンバ、アナカリスを試したが、ホテイアオイが一番良く産卵した。ヤゴは、トンボに詳しい先生と一緒にプールで捕まえて入れ、ビオトープ内の弱った魚を食べて大きく成長し、羽化させることが出来た。
- ③ 子どもたちに自然の生態系を理解させるとともに、生き物を大切にすることを教えることができた。



3. 今後の課題、実践のポイント

個人で行っているので予算がなく、自費では規模に限界があるのが現状である。現在も子どもたちが興味を持ち、頻繁にのぞいている。子どもたちによりよく理解してもらうためにも、規模を大きくしていきたい。最終目標は学校に池を作ることである。

